

続きまして最後の報告をご担当頂きますのは高槻市消防本部中消防署警備第二課課長補佐 長東 幸仁（なつか ゆきひと）様です。高槻市消防本部は 3 月 11 日 18 時 51 分に救急消防援助隊の要請を受け同日中に 20 名を岩手県に派遣、他の大阪府下の隊と共に 12 日深夜に岩手県入りし、大槌町、釜石地区に於いて救助及び火災消化活動などを展開いたしました。現場での活動に従事なさいました長東様より現場からの報告を頂戴いたします。よろしく願いいたします。

長東 幸仁（なつか ゆきひと）

みなさんこんにちは。ただ今ご紹介を頂きました高槻市中消防署警備第二課で課長補佐をしております長東と申します、よろしく願いいたします。

緊急消防援助隊として岩手県の方へ派遣されましたので、その現場活動報告という事で簡単ではございますがさせて頂こうと思います。

まず一次派遣隊の概要という事でご説明させて頂きます。第一次派遣隊、万博の東駐車場という所が集結場所になっておりまして、そちらに大阪府隊集結いたしました。67 隊、266 名が集結いたしまして 20 時 50 分に万博の駐車場を出発しております。出発前の隊長ミーティングの中で府隊長の方から指示がありましたのが、まず燃料補給につきまして、何処で燃料補給出来るか分からない状態であるため適宜サービスエリア等で燃料補給が出来るところがあれば実施して下さい。それから地震による道路のダメージ、津波による通行止め等が予測されますので迂回して現地へ向かう場合もあります。また車両の走行には十分注意して下さい。などの説明があり出発をいたしました。

地震発生当初は、大阪府隊は和歌山県の方へ津波被害があるかもしれないという事で、和歌山県方面への派遣という事で待機命令がかかっておりました。それで順次被害状況が分かって来る中で、出発時には関東方面、特に東京方面へ進出して活動を行いますというところまで決まりまして。実際に活動する場所等がまったく分からないまま出動しております。移動中 12 日になりますけれども、一夜明けました 6 時 12 分に東京方面から東北方面へ向かうことが変更という事で連絡が入っております。この時も東北方面へ向かうだけの指示で具体的な活動場所は示されないまま東北方面に進路を取ったわけでございます。

12 日、発生からまる 1 日経っている日なんですけれども、12 日中は現地へ向けて、東北方面へ向けての移動の時間になりました。名神高速道路、東名高速道路、首都高速道路、東北道等を通りまして、野営地になっておりました岩手県の遠野市にあります遠野運動公園という所に着きましたのが 13 日の午前 3 時になります。その間、約 30 時間殆ど仮眠も取れない中、休憩時間もそう取れない

中、不眠不休とは言いませんけれども約 30 時間、走行距離は私のところの救助工作車で約 1, 200k 走って現地へ行っております。

写真は途中の東北自動車道ですけれども、私は、平成 7 年の阪神淡路大震災の時に神戸市の長田区の方へ消防隊として出動させて頂いておりますけれども、高速道路のダメージについては、阪神高速が倒れている横を通って出動したんですけれども、想像していたよりは高速道路のダメージは少なかったかなと思います。段差が出来ておりましたけれども既に道路公団の方だと思いますが緊急のアスファルトをひいて頂いております、高速道路は緊急車両の通行はかろうじて出来る状態にはなっておりました。これが走行車線の方の写真ですけれども、この様なひび割れ等もありましたので三角コーンを立てて頂いております。緊急車の走行には支障がなかったように思われます。ただし 80 キロ、100 キロという速度で走れる様な状態ではありませんでした。

13 日午前 3 時に遠野市の運動公園に到着し、大阪府隊長の方から仮眠を取って下さいというかたちになりまして、3 時半から 5 時半ぐらいまで 2 時間ほど仮眠を取らせて頂きました。後方支援隊がまだ準備されておられないので車両の中で毛布 1 枚で仮眠したかたちになります。当初関東方面への進出でしたので、冬支度等の支度をしておりません、車両の中はかなり寒い状態でありました。

仮眠後の 6 時の隊長ミーティングの時に、活動場所は岩手県大槌町という事で指示が下りました。この時点では大槌町には消防の救助隊が入っていない状況でありますので、という説明がありまして、現場の状況も詳しく分かっていない状況でした。大槌町に入る前に釜石の駅前で車両集結をして、そこで必要な救助の資機材等を下しまして、手配されました移動用のバスに資機材を積み込みまして現地の大槌町へ向かうというかたちになりました。

大槌町までの道のり約 3 キロ手前で道路倒壊或は瓦礫の影響で、約 3 キロ手前からは車両が通行できないということで、徒歩で現地へ入っております。先遣隊が大槌町に設けておりました現地指揮本部で具体的な指示を得て活動に入っております。

これが朝の隊長ミーティングの時の写真になります。真ん中でメガフォンを持っておられるのが府隊長というかたちになります。釜石市内の被害の状況の写真です。ガソリンスタンドと思われますけれどもこう言った状況で、被災地では車の燃料補給等がまったく出来ない状況になっておりました。釜石港の写真です。奥にタンカーが陸に上がっているのが分かります。おそらく船のドック

か何かだと思いますが津波を受けた方向が壊滅的な崩れ方をしているという写真でございます。釜石駅前の救助隊の集結状況です。こう言ったかたちで集結いたしまして高槻消防が現地へ持って行くために用意した資機材がこの写真になります。一番下から、ダイヤモンドチェーンの付いたチェーンソーです。ブロックなどを切るためのチェーンソーになります。黄色い機材がエンジンカッター、その上が普通の木材等を切断するチェーンソーになります。その奥に置いてあるのがダイヤモンドチェーンソーの水を送るためのポンプになっております。毛布にくるんであるのが要救助者発見の場合の担架それから建物の二階、三階等に侵入するための梯子等を携行してバスに乗りました。総重量が約100キロちょっとになります。これを5人の隊員で大槌町手前3キロから手で運んで大槌町へ入ったわけです。これが手前3キロの地点のところの写真になります。奥に山が見えまして、もうひとつ岬があるんですけれども、奥の岬とこの岬の間が丁度大槌町になっております。ここでバスを降りた状況がこの写真です。各隊資機材等を持ちまして、津波に備えたライフジャケットを装着しております。大槌町到着が10時50分になります。大槌町での指示内容が大阪市消防局西救助隊と合同で大槌町の桜木町付近での人命検索を実施せよというかたちで、この2隊で検索に入りました。この桜木町付近は津波の被害が大きかったようで、家の1階部分は全て津波による被害を受けておられて、2階部分は割りときれいな状態で残っている住宅が多かったです。津波に流されてしまった家も少なかった所ですけれども。この地区で高齢の要救助者3名を発見しております。3名発見しておりますけれども生存されている方は0名でした。残念ながら既にお亡くなりになっておられました。発見しましたお二人については家の中で発見しましたが、お一人の方は家の玄関先で発見しております。近所の方に聞きましてもこの人がどこの人か分かりませんという様な情報を頂いております。津波による被害が中心の地域と思います。

この日14時30分に津波の発生、或は引き波が観測されたという情報が入りまして緊急退避というかたちになっております。緊急退避ということで活動が一旦中断しました。写真は桜木町の様子です。見て頂いたら、1階部分は津波による被害がありますが、2階部分はわりときれいな形で残っております。1階部分は完全に水害を受けた様なかたちになっておりました。道路の状況ですけれども、奥の方に流された車が2台止まっているのが分かると思います。津波により瓦礫や車両、泥などが多量に流されてきた形です。ちょっと高い所から撮っておりますけれども。瓦礫等々が散乱しておりますがこの辺りは流出した家は無いようで町並みは残っております。

14時30分に津波の情報が入りまして、そのまま待機していたんですけれど

も、日没になりその日の活動は終了というかたちになりました。活動を終了しまして後片付けをし、野営地へ帰ったのが13日は21時30分ごろです。やはり大阪府隊だけで100台近い消防車が行っておりますので現地から野営地まで帰る道等々移動にもかなりの時間を要することになっておりました。

14日の検索活動の内容になります。6時30分に前日と同じく隊長ミーティングが行われております。内容につきましては、昨日に続き人命の検索活動、それから大槌町の現場指揮本部で詳細に活動場所を割り振りますということと。それから各救助隊1隊に対して消火隊を3から4隊配備しますというかたちで指示されております。高槻の救助隊には高槻の磐手分署というところのポンプ隊、それから大阪市消防局の勝山ポンプ隊、それから泉南市消防本部、松原市消防本部のポンプ隊の方、合計5隊24名で14日の日は検索活動しております。遠野運動公園から出動途中10時15分ごろ釜石の駅前で、津波警報が発令されまして、ライフジャケットの着用という指示が大阪府隊長のほうからありました。津波警報が解除されるまでの間約2時間そこで足止めをくらって車両待機しております。この時に福島の原因の情報も入りまして、風向きが丁度岩手県の方を向いているという状況もありまして車内待機を徹底せよとのことで指示がかかっております。車両待機が解除されまして12時40分に大槌町に到着し活動しております。内容は大槌町上町付近から末広町付近の検索ということで指示を受けて活動を行っております。

この地区は、津波の後に火災が発生した地区になっております。具体的には大槌町の大槌小学校や大槌の郵便局等々があります大槌町のメイン通りのところになります。検索結果としては上町付近を検索した結果20名の方を発見しております。年齢不明の男性2名、女性1名、他の17名の方においては年齢、性別の不明の状態で見つけております。火災が発生した現場ですのでかなり長い間火災が燃えていたと想像されます。年齢、性別等まったく分からない方が17名おられました。これが現場の写真です。後ろに写っているのが大槌小学校です。こういったかたちで火災の後というかたちになります。ちょっと高台のところから写しておりますが、奥の方に水門の様なものが写っておりますが、この方向から津波が入って来たのではないかなと想像されます。写っております燃えた車などは色が何色であったのか判別出来ない状況ですのでそうとう長時間火炎にさらされた中で燃えていたと想像されます。我々の検索も本当でしたら、細部にわたりくまなく検索し要救助者、生存者の発見、救助というかたちになるんですけれども。この様な状況になりますと取あえず建物内、それから車両の中等と人力で排除できる瓦礫をどけて要救助者の方を探すというのが

精一杯の状況でした。

大槌郵便局の前の写真になります。郵便局前こちらにポールが見えると思うんですけども、おそらくこの部分は歩道だったと思われます。そしてこのポールからこちら側は車道部分であったと思うんですけども、ビルの並びがこのようになっておりますので地図で見ますと、これが大槌町のメイン通りになっていたと思われます。これは郵便局の駐車場です。駐車場の裏側は丁度崖崩れ止めのコンクリートがしてあるんですけども、ここに相当数の車が打ち上げられた状態で燃え尽きたというかたちになっております。

消防緊急援助隊の派遣の課題として私なりにちょっと考えてきました。今回の災害の規模というのは阪神淡路大震災に比べると、先ほど先生の話にあったと思いますけれども、災害規模自体がかなり広域であるために、消防力或は自衛隊、警察等の初期対応する防災機関の力が各地に分散してしまうというところがあるのかなと思います。それから大阪から岩手県までということで被災地までの距離、それから交通網というところも問題になるんじゃないかなというところで、遠距離のため活動開始までに時間がかかります。我々も出発してから活動開始するまでに約36時間から37時間ぐらいかかっております。こういった初期の救助活動をするまでに長時間を要するといのも課題ではないかなと考えます。それから途中での燃料補給。それから隊員の長時間の移動等を考えますと、隊員の健康管理なども今後課題になるのではないかと考えております。

それから何よりも困ったのが情報の不足です。被災地の行政機関が壊滅的な被害を受けているということで、被災地の生の情報が、救援に向かう隊員たちにはほとんど入って来ない状況で、この辺が私が経験した阪神淡路大震災との違いかなと思います。阪神淡路の時は、長田区の方で消火活動をしましたけれども、長田の消防署の人が、活動しておられましたし、神戸市の市役所も被害は受けておりましたけれども活動というか、対応出来ていたと思います。私が消火活動をしておりますところへ長田の消防署の方がきて消防車の燃料は大丈夫ですか、といったことを聞きに来ておりましたけれども、そういったことが今回の現場では現地の今の情報として得られない状況になっておりました。最後になりますけれども救助隊員が非常にありがたかたと思ったことをお話しさせて頂いて終わりにしたいと思います。まず下から、「その他」の方からいきますと。やはり被災地におられる方々から頑張ってください、ありがとうございます、よろしく願います、といった言葉をかけられます。我々にかける皆さんの期待の大きさをひしひしと感じながら活動させて頂きました。それから、あるサービスエリアで、停電により電気がまったく来ていない状況の中、ロウ

ソクを立てたレストランでおうどんとおにぎりを消防隊の皆様どうぞということで振舞って頂きまして、そういったことも非常に感謝しております。その時、隊員達と話しをしたのですけれども、このおうどんとおにぎりの味は絶対に忘れるな、頑張ってこい、ということだと隊員皆で気持ちをさらに高めることができました。この様な状況の中、地元の方々の支援を受けながら活動をしたのですけれども。やはり地元の情報が必要でした。私達が行きましたら現場の地理に不案内というところがあります。指揮本部で配布されました地図は住宅地図をコピーしたたった1枚の地図です。その地図を見て現場の搜索活動をしてくださいと言われのですが、先ほど写真を見て頂いたように町の中どこがどこだか分からない状況になっております。そう言った時に私達が非常に助かったなと思うのは、一番上に書いてあります「情報提供」でございます。もう既に発生から2日以上経っている状況ですので、家を片付けに来られている方等がおられました。我々が検索に入りまして、まずその家の方に大丈夫ですかと声掛けさせて頂きます。必ず言われるのは「私達は大丈夫です」と言われます。私達は大丈夫ですと言われるのは「命は大丈夫でした」という意味で考えて活動しておりました。お忙しいところ申し訳ないですが、ご近所の方の情報を教えていただけないでしょうかとお願いしますと、忙しい中手を止めて頂いて、消防隊を案内してくださり、「この家の人は今日避難所で見かけたので無事です。」「前の家の方は、今日は車が停まっていないからお仕事に行っておられるでしょう」、「このおじいちゃんとおばあちゃんは地震の後見ていないのでちょっと行方が分かりません」という情報をご近所の方が一生懸命教えてくださいました。それでその情報を基に家の中など付近の検索活動をさせて頂いております。

もしこちらの方でこう言った災害が起こりましたら「向こう三軒両隣」というようなご近所付き合いが非常に重要なんだと改めて思いました。そう言った近所の方の情報が私達の活動の情報源になるということを改めて感じる事ができました。今日お集まりのみなさんにつきましても、こういったところを今後の課題と考えて頂いて地域での防災活動に生かして頂いたらなと思います。

たどたどしい報告になりましたけれども救助隊からの報告として終わらせて頂きます。

ご静聴ありがとうございました。